

～目次～

【1】TKK活動

【2】加盟団体の活動

【3】行政、他団体の活動

【4】取材コーナー「行ってきました、聞いてきました！」

— 12 医療圏紹介シリーズ ③区東北部 いずみ記念病院

④区南部 荏原病院

— 各記事の前の ●は活動報告、○は今後の予定 表題の< >はシリーズ開催です —

【1】TKK活動

* *

●TKK 要望書について都との意見交換会

9月3日午前、第一本庁舎 29階会議室

TKK:細見みゑ理事長、小澤・藏方両副理事長 他 7名

東京都:西脇誠一郎課長(福祉保健局 障害者施策推進部 精神保健医療課)他 9名

○<高次脳機能障害 実践的アプローチ講習会>

第3回 12/9(日)10:45~17:30

会場:東京慈恵会医科大学 西新橋校 大学1号館3階講堂 (東京都港区西新橋校3丁目)

第3回目12/9(日)の申込みは、11月11日(日)10時から受付けています。

詳細は:http://www.brain-tkk.com/index/show_information.php?boardAct=view&readNum=190

○<医療及び家族相談会>

今年度の残り2回を次の日程、会場で開催します。

2018年 11/25(日) 【東京都心身障害者福祉センター】

2019年 2/17(日) 【東京慈恵会医科大学附属第三病院】

詳細は:http://www.brain-tkk.com/index/show_information.php?boardAct=view&readNum=189

【2】加盟団体の活動

* *

●サークルエコー 20周年記念合宿を三浦半島で開催 9月25日~26日

==== 発足 20 周年記念合宿を神奈川県三浦半島のまほろばマイズで行いました。1998 年末の発足以来、毎年合宿を続けてきましたが、今回は合宿内で臨時総会を開催。この日より、田辺和子・玉木和彦の共同代表、4 月からは玉木の単独代表となることが承認されました。

総会後は、合宿恒例の「語ろう会」。生活の実態、当事者へのアプローチの方法、介護者自身の健康、医療・行政に対する要望などが語られました。近くの「ジョナサン」に移動しての懇親パーティでは、東北からかけつけた会員が、「このパーティ、たのしい！」とシャウト。コミュニケーションに障害をもつ彼のことばをはじめて聞いた、みんなはびっくり。翌日は、横須賀港から軍艦クルーズを楽しんで散会となりました。====サークルエコー代表 田辺和子

●交通事故被害者家族ネットワーク 医療・福祉従事者向け講習会「交通事故被害者支援 東京都講習会」

10 月 27 日(土) JA 共済ビル 1F カンファレンスホール

1. 講演: 古田弁護士の「交通事故による脳外傷者の具体的な救済方法と法律上の手続き」
2. 講演: 渡邊 修医師の「交通事故に生じる高次脳機能障害の理解とその対応」
3. シンポジウム: 事例検討会

==== 医療・福祉従事者に、交通事故脳外傷者の急性期から解決まで、各々の相談現場での必要なサポートや適切な相談支援とは何かを理解して貰うための講習会である。交通事故弁護士全国ネットの古田弁護士の講演は、損害賠償訴訟の現状とノウハウ。慈恵医大第三病院の渡邊医師の講演では、交通事故が起因の高次脳機能障害の診断には 3 つの必須条件が必要であること…(1) 高次脳機能障害の具体的な内容と日常生活にどのような制約があるか？(2) 神経心理学的検査結果は？(3) 脳損傷などの画像情報(CT・MRI・脳血流検査)があるか？等々や、診断方法、高次脳機能障害の確認、リハビリ、就労支援、小児高次脳機能障害の特徴について詳細な説明があった。後半のシンポでは、交通事故事例から、残存した高次脳機能障害とは？転院先病院は？退院後の方向性は？手帳・年金。労災・自賠責保険診断とタイミングとそのノウハウ等々、様々な事項に適切に対応するために熱い検討会が繰り広げられた。====TKK 理事長 細見みゑ

○高次脳機能障害者と家族の会

・20 周年記念誌『こーじを友に今を生きる～それぞれの一步～』発刊

9 月 9 日に 20 周年記念シンポジウムを開催。記念事業として作成した、「こーじ通信」に寄せられた当事者・家族の手記をまとめた記念誌を 500 円でお分けいたします。多くの方の貴重な記録で当事者・家族をはじめ、医療・福祉などの支援者の方々にもお役に立てればと思っています。

◇お申込み: [メール koujinou_kazokukai@yahoo.co.jp](mailto:koujinou_kazokukai@yahoo.co.jp)、TEL/FAX: 03-3200-8970

・イタリアランチ & 井の頭自然文化園の見学

11 月 11 日(日) 11:15～、参加費: 1400 円、集合: JR 中央線・京王井の頭線 吉祥寺駅「丸井」前に 11:15

◇申込み: 参加者氏名、連絡先を添えて、FAX 03-3200-8970、[メール koujinou_kazokukai@yahoo.co.jp](mailto:koujinou_kazokukai@yahoo.co.jp)

問合せ: 09080368606(太田) 09092042521(松枝)

詳しくは、右記をクリックしてご覧ください。 <http://kouji-kazokukai.org/exchange/20181027/741.html>

○言語生活サポートセンター 失語講座シリーズ

- 1) 11 月 16 日 会話支援実践付き失語症理解講座
- 2) 11 月 18 日 家族カフェワックル(家族限定)
- 3) 12 月 16 日 失語症カフェワックル
- 4) 1 月 20 日 家族カフェワックル

開催場所は「ウェルファーム杉並」または「言語生活サポートセンター」

各回とも午後から、会費 500 円、詳細・お申し込みは 03-6915-1877、gengoseikatsu@gengoseikatsu.com まで

○VIVID 新宿区委託支援事業 第2回セミナー、高次脳機能障害のリハビリ ～ワークショップで作る実践プログラム
11月17日(土)13:30～16:30 新宿けやき園 1F 地域交流スペース (新宿区百人町 4-5-1)

① ワークショップ「落語 ザ・リーディング」大塚みどりさん(女優・ミニデイリーディング劇担当)

② 講演「高次脳機能障害の回復を促すために」渡邊修氏(東京慈恵医大附属第三病院リハビリテーション科診療部長)

対象:高次脳機能障害の当事者・家族、支援者・専門職

◇お申込み:下記 VIVID HP お問い合わせフォームから。

http://www.vivid.or.jp/images/stories/pdf/20181117_semina.pdf

○高次脳機能障がい者活動センター調布ドリーム

<第36回ドリームサロン ～高次脳機能障害を 知ろう、語ろう、もっと身近に～>

11/24(土)13:00～16:30 東京都多摩障害者スポーツセンター[調布市西町 376-3(味の素スタジアム内)]

京王線飛田給駅北口徒歩15分 無料送迎バス(毎時10分 or 40分)、無料駐車場あり

第1部 講演「自分がしたいことを実現する」～本人の主体性を配慮する～

講師:長谷川 幹 氏 (三軒茶屋内科リハビリテーションクリニック院長/日本脳損傷者ケアリング・コミュニティ学会代表)

第2部 当事者と共に語り合おう!

○フォーラム大田高次脳「高次脳機能障害と囲碁」実行委員会

共催:大田区 後援:区南部圏域高次脳機能障害支援普及事業(事務局荏原病院)

高次脳機能障害と囲碁&心の唄コンサート

12/2(日) 11:00～16:00 大田文化の森ホール

・囲碁体験コーナー「10分で覚える囲碁」木谷正道アマ6段 記念対局 高次脳機能障害当事者、東海林晴也(全身性障害)、全盲の棋士、ほか

○ハイリハジュニア クリスマス会&勉強会

・12/15(土) クリスマス会 江戸川区区民会館 ・1月、就労に関して勉強会の予定

○いちごえ会 <第18回交流会クリスマスフェスタ>

12月16日(日)13:00～17:00 小金井市前原暫定会場1階(小金井市前原町 3-33-27)武蔵小金井駅徒歩7分

◇参加費 大人500円 子供250円 会員・非会員を問わずどなたでも参加出来ます。締切り:11/30

お申込み:右記ホームページのフォームからお申込み下さい。 <https://ichigoe.org/archives/2363>

【3】行政、他団体の活動

* *

●自動車損害賠償制度を考える会「自賠償を考える会」シンポジウム～自動車事故被害者救済の充実に向けて～

9月10日午後、日本自動車会館1Fくるまプラザ

・基調講演:日弁連理事の小林 覚弁護士、

・被害者救済の現状説明:国交省参事官小林 豊氏

・パネルディスカッション:日大部長 福田弥夫氏、小林 覚氏、小林 豊氏、全国遷延性家族の会 桑山雄次氏、日本
頸髄損傷の会 徳政宏一氏、日本自動車会議所 秋田 進氏

・要望書発表、記者会見

===政府から運用益を返して長年貰う活動の結果、今年度15年振りに政府予算から約23億円が戻されたが、未だ私達ユーザーの運用益金6,000億円は政府一般会計に残ったままである。その繰戻しを継続し拡大するために、強く世論に訴え理解を広めるためのシンポジウムが開催された。自動車業界や被害者団体等多くの方々の参加により、熱くディスカッションが展開され、新聞、テレビ、雑誌等多くのマスコミ関係が詰めかけ、記者会見も開かれた。=== 理事長 細見みゑ

●朝日新聞厚生文化事業団 高次脳機能障害講演会「医療と連携、リハビリから就労へ」

9月30日(日)午後、東京 浜離宮朝日ホール

基調講演「高次脳機能障害のリハビリテーション」 講師:橋本 圭司氏

対談「更なる挑戦」 石井 雅史氏/橋本 圭司氏

シンポジウム「医療と連携、リハビリから就労へ」

滝澤 学氏(コーディネーター) 納谷 敦夫氏/野々垣 睦美氏/深津玲子氏

====この日は、猛烈な台風が夕方から来る予定の天候であったため、大阪堺市の納屋先生はシンポジストとして参加できなかった。そのような天候であったにもかかわらず200名ほどの参加者で賑わった。橋本先生の基調講演は、いつもながら軽妙で要点を捉えた内容なので、参加者の興味をそらさなかった。対談の際の石井氏のご様子から、数年前の対談より、格段に改善されているご様子が伺われ、高次脳機能障害は年月こそかかりはするが、明らかに改善する障害だと、参加者に希望を与えるものでした。====理事長 細見みゑ

●港区、事業委託:TKK、協力:「みなと高次脳」

港区高次脳機能障害講演会、10/21(日)午後、リーブラホール

講演1 「ご家族・支援者必見!! わかりやすい高次脳機能障害」

講師:今橋久美子氏(国立障害者リハビリテーションセンター高次脳機能障害情報・支援センター 研究員)

講演2 「10年間、高次脳機能障害と歩んでみて」

講師:就労中の当事者S氏(会社員/心肺停止による低酸素脳症)

対 談:「高次脳機能障害を語り合う」今橋 久美子氏と当事者S氏

====今回の講演は、TKKや港区内は勿論ですが、東京都全域や神奈川、千葉、埼玉、茨城などからも多勢の参加があり、大変盛会でした。二つの講演とも、質疑応答が活発でしたので、皆様の関心の高さと反響の大きさが伺えました。

1番目の今橋久美子氏の「ご家族・支援者必見!! わかりやすい高次脳機能障害」は、国リハが2013から5年間実施したモデル事業を基にしての原因や症状や判断基準、国リハが現在実施している生活支援や就労支援のノウハウ、制度利用等々についてなど、事例を交えて要点をわかりやすく講義して頂きました。

2番目のS講師の「10年間 高次脳機能障害と歩んでみて」は、発症から今日までの10年間の血の滲むような努力と工夫等々、更にかなり踏み込んだお話など赤裸々に語って頂き、皆様に大変な感動をもたらしました。Sさんのもともと獲得なさっていた高いプレゼンテーション能力により、パワーポイントを駆使したお話しは見事なものでした。それを聞く限り、これで高次脳機能障害なの?と疑問視されがちですが、そこが高次脳機能障害の難しさ、大変さなのだといふ気がして欲しいものです。一見軽そうに見えても、様々な高次脳機能障害を重複して持つことになると、以前の高度な仕事には戻れず、復職、再就職を繰り返した事、収入の低下が避けられず、そのような中で、奥様と共にご3人のお子様を抱えて必死に戦ってこられたことなど、思わず涙を誘われてしまいました。高次脳機能障害が重ければ勿論ですが、軽そうに見えても、重複して現れる高

次脳機能障害はその方及びそのご家族の人生を全く暗転させてしまいます。また、医療や福祉の方々が一生懸命に当事者を支援してくださって就労させることが出来たら、支援者は目的が達成できたと安堵し一件落着と思いがちですが、しかし当事者にとってそれは「落着」ではなく、実は「始まり」なのだ…は、本当に重い言葉でした。その通りだと思いました。脳を損傷することの大変さ、重大さを世の方々にもっともっと分かって欲しいものをつくづく思う次第でした。==理事長 細見みゑ

●「高次脳機能障害のある方のご家族への「介護負担感」に関する実態調査報告書」が発刊

慈恵医科大附属第三病院リハビリテーション科 診療部長渡邊 修氏が実施した調査の報告書が10月に発刊されました。

報告書：http://www.brain-tkk.com/index/show_board.php?boardAct=view&readNum=208

==== この実態調査報告書を拝読させて頂きまして、先ず思いますには…、このような、客観性のある、詳細な研究に基づいた資料(報告書)は、今後の社会的な支援法制定に必ずや結び付き、法的に裏付けされた制度としての高次脳機能障害支援法(仮称)に結び付くものと確信しました。当事者ご家族皆様の切実な思いが、強烈に伝わってくる資料です。この苦心の資料(報告書)を広く世の中に知らしめる方策の推進こそが、渡邊修先生が書いておられる「一助」どころか、全助になるものと思います。高次脳機能障害対策の一層の拡充を推進させるために活動することこそが、私達家族会の使命だと思えます。そして、待っているだけではなく、強い思いで行動することが今、必要なのだと思えます。本当に心強い資料であると、有り難く思えます。常に、私達当事者とその家族を心配してくださる、渡邊 修先生には心から感謝申し上げる次第です。
==== 理事長 細見みゑ

●NPO 法人福祉フォーラム・ジャパン

シンポジウム「高次脳機能障害者をどう支えるか」～社会的支援法(仮称)制定に向けて～

10/23 プレスセンタービル 10階 日本記者クラブ

シンポジスト ・慈恵第三病院リハビリテーション科 診療部長 渡邊修氏

・衆議院議員 古川康氏

・参議院議員 山本博司氏

・名古屋リハビリテーションセンター 自立支援部長兼事務局参事 鈴木智敦氏

コメンテーター ・前武蔵野赤十字病院院長 日本赤十字社医療事業推進本部長 富田博樹氏

司 会

・社会福祉法人グロー 企画事業部 副部長 田端一恵氏

==== 開催案内に「障害についての社会的認知度はかなり低く、地域や職場で特性に起因する行動が誤解され、当事者も家族も傷つくということが起きており、支援法の制定によりその啓発や支援体制の充実を図ることが急がれます。」と記載されていた本シンポジウムに非常に期待を持って参加しました。募集は100名でしたが申し込みが多く会場を変更して開催、結局当日は200名近い参加者があったと思えます。

渡邊氏は障害の説明に加え当事者及び家族に登壇いただき10年に及ぶリハビリ、就労の経験を紹介、富田氏は初期からこの障害に取り組んだ経過を、鈴木氏はこれまでの行政の取り組みを整理し、その中での課題、そして今後に向けての対策私案を提示されました。古川氏(自民党)、山本氏(公明党)の両氏からは、各々の政党でこの障害への取り組みをリードしているお立場から力強いご発言がありました。

このようなシンポジウムが霞が関に近い日比谷で開催され各界の代表者により議論されたことは、今後の展開にとって非常に有意義なことと思います。
====理事 矢野久喜

●国立市しょうがいしゃ支援課 共催:レジリエンス、鈴木慶やすらぎづくりにつく

「MUSIC FEST2018 響け!僕らわたしたちの歌～くにたち こうじのう音楽祭」

10/31(水)夜、くにたち市民芸術小ホール地下スタジオ

・高次脳機能障害って何?

・高次脳機能障害 わたしたちの居場所

====「MUSIC FEST2018 響け！僕らわたしたちの歌～にたち こうじのう音楽祭」が、10月31日(水)17時半より、くにたち市民芸術小ホール地下スタジオにて開催されました。このイベントは国立市役所、レジリエンス、鈴木慶やすらぎクリニックの共催で、合同の合唱団を結成し練習を重ねてきました。本番の31日は丁度ハロウィンでしたので、それぞれ自由に仮装をして舞台に立ちました。皆さん、本番は緊張がりましたが、それぞれがベストのパフォーマンスを発揮できたと思います。歌った曲は演奏順に、中島みゆきの「糸」、ベン・E・キングの「Stand by Me」、MR.BIGの「To Be With You」、坂本九の「見上げてごらん夜の星を」の全4曲。そしてアンコールで、再度「糸」を会場の皆さんと一緒に歌いました。始まる前はお客さんが来るか心配する声もありましたが、結果的には会場は満席(約70名)となり、大いに盛り上がりました。全4曲の曲と曲の合間に、国立市高次脳機能障害サロン、鈴木慶やすらぎクリニック、レジリエンスのそれぞれの利用(当事者)が自分のことを支援者と共に語る時間もあり、高次脳機能障害について、当事者にしか語れないリアルな生の声を伝えられたことも大変有意義でした。音楽祭を観に来てくださった皆様、ありがとうございました。

====レジリエンス代表 蟹江こうじ

○東京慈恵会医科大学附属第三病院リハビリテーション科

北多摩南部医療圏支援研修会

11/11(日)13:30～16:30、調布市総合福祉センター2階 201～203 会議室、参加費:無料

講演:「地域で高次脳機能障害のある方の就労支援の仕組みをどうつくるのか」

講師:障害者就業・生活支援センター TALANT(タラント)/センター長 野路 和之氏

高次脳機能障害支援 事業所・施設報告:「ウェルビー府中駅前センター」・「介護老人保健施設ピースプラザ高齢者在宅サービスセンター」・「地域生活支援センターあけぼの」

詳細は:http://www.brain-tkk.com/index/show_board.php?boardAct=view&readNum=209

○荒川たんぽぽセンター

平成30年度 高次脳機能障がい講演会「障がいと共に生きる社会を考える」

11月22日(木)10:00～12:00、アクロスあらかわ 1階 多目的ホール、費用:無料、

講師:橋とも子氏(国立保健医療科学院 研究情報支援研究センター研究官)

◇申込み・問い合わせ:荒川たんぽぽセンター(TEL:03-3891-6825 / FAX:03-3807-8483)

<http://www.city.arakawa.tokyo.jp/event/zenevent/koujinoukouennkai.html>

○葛飾区

失語症講演会「命の灯ふたたび」一生、脳イキイキと>

12/9 13:00～16:00 ウエルピアかつしか 1階、講師:横張琴子氏

◇ 申込み

「失語症講演会」・住所・氏名・電話番号を記入、電話 電子申請 はがき FAX で下記までお申し込み下さい。

葛飾地域活動センター(ウエルピア3階)、〒124-0006 葛飾区堀切 3-34-1 電話 5698-1336 FAX 5698-1337

○港区、事業委託:本法人(TKK)、協力:みなと高次脳、

30年度 港区 高次脳機能障害理解促進事業「高次脳機能障研修会」

みなとパーク芝浦1F男女平等参画センター「リーブラホール」、参加費:無料

第1回目「高次脳機能障研修会」平成31年1/23(水)18:30～20:30、

講演:「高次脳機能障害のマネジメント」講師:渡邊 修氏(慈恵第3病院 リハビリテーション科 医師)
事例報告:当事者・そのご家族・支援者

第2回目「高次脳機能障研修会」平成31年1/30(水)18:30~20:30、

講演:「高次脳機能障害者の自動車運転」講師:武原 格氏(都リハ病院 リハビリテーション科 医師)
事例報告:当事者・そのご家族・支援者

【4】取材コーナー「行ってきました、聞いてきました！」

—12 医療圏紹介シリーズ ③区東北部 いずみ記念病院

④区南部 荏原病院

* *

③ 区東北部医療圏(足立区・荒川区・葛飾区)

拠点病院:いずみ記念病院

事業開始:平成27年4月

<報告者:TKK 監事 家族会 かつしか代表 山崎サカエ、理事 矢野 久喜>

地域の特徴／支援施設等

足立区(67万人)・葛飾区(44万人)・荒川区(21万人)という、人口が大きく異なる3つの区からなる医療圏。各区には障害者支援を担う行政の支援拠点、「足立区生涯福祉センターあしすと」「葛飾区地域活動支援センターウェルピア」「荒川区心身障害者福祉センター荒川たんぽぽセンター」がある。医療面では慈恵医大葛飾医療センター(葛飾)、女子医大東医療センター(荒川)の2つの大学病院があり、また地域医療機関を束ねる各区医師会の役割も大きい。

主な活動／業績

■専門職を中心とした研修会の開催

リハビリ専門職をはじめ、看護師、介護事業所などに勤務するリハビリ職種を対象として年に十数回開催。各回とも60名前後の参加者で盛況である。また研究会(ミニ学会)、事例検討会も行っている。

■一般向け講演会、説明会

行政の関係機関や家族会主催の場で、支援者、ご家族・当事者向けに高次脳機能障害について説明している。

■地域機関との連携、地域支援

各区主催で高次脳機能障がい関係機関連絡会が年に数回開催され、関係機関と障害の理解、連携の強化を図っている。また地域のリハ実施機関への相談支援も積極的に行っている。

これらの活動は、高次脳機能障害支援センター発足の1年前に指定された「区東北部地域リハビリテーション支援センター」としての事業と一体となって展開されている。



【2018.6 葛飾区ウェルピアで「高次脳機能障害とともに歩むために・・・」の講演をされている高田医師】

●事業推進者インタビュー：いずみ記念病院 リハビリテーション科医師高田耕太郎氏、地域連携室長浅野光彦氏

【今までの経緯】

平成 27 年にこの事業を開始し 3 年になりました。事業を始めるに当たり事業展開イメージを描き、そして実際の活動を進めながらこのイメージの展開策を具現化し、また次のイメージ、ビジョンを作ってきました。

ここ数年で区をはじめとした関係機関、施設とのリレーション、信頼関係が構築できたのが大きな収穫と思っています。

その結果、福祉制度利用や各種申請のための診断書、またリハビリのあり方について患者さんや行政機関、支援施設から多くのご相談を頂いています。



浅野室長と高田医師

【活動の現状】

主に上記の「主な活動/業績」に記載された活動を行っていますが、動いて知ること、分かることがあります。最近では医療機関・福祉施設等で働くセラピストさん、PT/OT/ST さんが多数いて、その方々が各区ごとにネットワークを作っています。そのネットワークを活用することが高次脳機能障害の啓発を図る一つの方法であること、そしてメンバーの中から高次脳機能障害の支援の核になる方が育てば地域の大きな力になると思います。

また患者さんの早期発見のためには医師会の会合で高次脳機能障害について説明し知っていただくことが有効であることも分かりました。

しかしまだまだ高次脳機能障害を持っていることが分からないでお困りの方が多いのだらうと思っています。急性期病院、回復期病院で後遺症について何も言われなかった方、回復期病院に行かず在宅に移った方の中には障害と分かるまで時間を要し、その間、適切な処置、リハが行われなかった方を多く見受けます。そうならないよう、この障害の普及啓発をもっと進めなければならないと痛感しています。

【今後の展望】

地域での専門的リハの充実、ネットワーク化を図り地域の解決力、対応力を UP すること、またこの障害の普及啓発を図りこの障害を知らずにお困りの方をより少なくするために、次のことに積極的に取り組む予定です。

- ・研修会、交流会の開催
- ・リハ関係職種間のネットワーキング
- ・地域医師会、行政との連携の推進

④ 区南部医療圏(品川区・太田区)

拠点病院:公益財団法人東京都保健医療公社 荏原病院

事業開始:平成 25 年 4 月

<報告者:TKK 副理事長 今井雅子、フォーラム大田高次脳代表 栗城優子>

地域の特徴/支援施設等

品川区(38 万人)・大田区(71 万人)という、特徴の異なる 2 区の圏域である。

品川区は区の施設が支援の中心で、「品川区立心身障害者福祉会館」が相談窓口であり、患者会としては「品川区高次脳機能障害者と家族の会」がある。

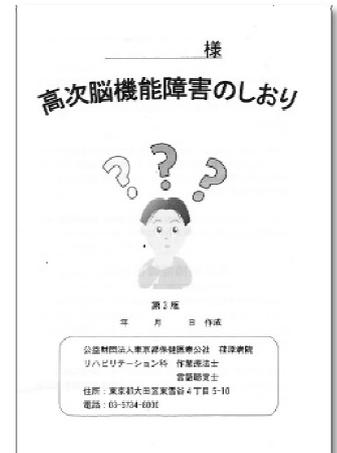
大田区は家族会「フォーラム大田高次脳」等を含めた支援者ネットなどの活動が活発で、「障がい者総合サポートセンターさぽーとぴあ」が相談窓口となっている。

主な活動／業績

■圏域連絡会を年1回開催するとともに、専門職等への研修として高次脳機能障害に関連したテーマで講演会を年2回程度実施している。症例検討会については、それぞれの区の地域性を考慮し、実際に地域の担当者が対応している症例を検討している。各区ごとに開催し、両区が相互に刺激し合い、情報が交換できるようにしている。

■家族会の活動へは、3区合同(品川区、大田区に加え目黒区)の家族会の活動も含め支援している。

■H28年には当院を退院する時に患者に渡す『高次脳機能障害のしおり』(右の図)を作成した。表紙を入れて12ページのもので、「症状」と「工夫」が書き込めるようになっている。記載は担当療法士が行うので、患者や家族がまだ十分理解できない高次脳機能障害について、困った時に読み返すことで症状を理解し、家族はどう接すればよいかを知ることできる。また生活期に支援に入ってくれる医療・福祉などの関係機関に提示することで、連携のツールとしても利用できる。



●事業推進者インタビュー: 荏原病院 リハビリテーション科医長 尾花正義先生

【2018年10月1日 荏原病院にて】

【今までの経緯】

元々当院は、区南部圏域の地域リハビリテーション支援センターでもあり、地域リハビリテーション支援事業の中で高次脳機能障害については取り組んでいました。この区南部圏域には、大学病院として昭和大学病院(品川区)と東邦大学医療センター大森病院(大田区)があり、共にリハビリテーション科が講座として存在し、当院の協力施設として地域リハビリテーション活動を支援してもらっています。高次脳機能障害に関しては、品川区では、これまで昭和大学病院リハビリテーション科が主体的に関わってこられたので、現在も品川区の患者会の活動への支援などは、昭和大学病院リハビリテーション科主体でやっていただいています。大田区では、家族会を含めた支援者ネットが活発に活動し、それが区に影響を与えています。つまり、2つの区で、高次脳機能障害に関わる動きが違うので、支援施設としては、その特徴を大事にしています。



尾花正義医師

この高次脳機能障害への各区の違いを考慮し、症例検討会もあえて各区ごとに実施し、区が互いに参加し刺激し合っています。高次脳機能障害に関連したパンフレット・マップなども、大田区がまず作り、その後品川区でも作りました。

【活動の現状】

高次脳機能障害を起こす疾患の発症からシームレスな支援を行うのは難しいことです。理想としては一つの医療機関が、高次脳機能障害患者を最初から最後まで見ていければ良いのですが、リハビリテーション医療自体が、疾患の病期である急性期・回復期・生活期で医療機関が分かれてしまうため、回復期から生活期に移行する際に、高次脳機能障害の患者も地域のかかりつけ医につながっても、患者の最初にかかわった急性期の病院とはかかわりがなくなることもあります。つまり、各病期の医療機関の間でも、高次脳機能障害に関する情報が十分に伝わらず、シームレスな支援が出来ていないのが現状です。

特に、医師の診療情報提供書(紹介状)の中には、高次脳機能障害に関する記載がないことが多く、患者を担当した療法士のサマリー(療法士間の診療情報)の中に記載されていることが多いようです。そこで、高次脳機能障害の患者を担当した療法士の間で、患者の高次脳機能障害に関する情報提供が確実に行えるようになってほしいと考えています。当院では、

その一つの方法として、家族・患者に『高次脳機能障害のしおり』を渡しています。

また、当院で行う高次脳機能障害に関する研修会・講演会に、医師の参加が少ないのも課題の一つです。各病期の医師間での連携がうまくいかないと、シームレスな支援につながらないし、高次脳機能障害を生じた患者・家族から依頼される診断書を書く医師も増えないので、これからも医者側へのアプローチを続ける必要性を感じています。

当院は、地域リハビリテーション支援センターと高次脳機能障害支援普及事業「専門的リハビリテーションの充実事業」の両方を担当しているので、この二つの事業の担当スタッフも分けていますが、両方の事業に関連・共通することも多いので、相互に連携を取って取り組んでいます。

【今後の展望】

区南部圏域では、回復期リハビリテーション病棟のある医療機関や高次脳機能障害者に関わる地域の施設が増えており、圏域連絡会を開催すると、多くの施設・関係者が参加するようになりました。今後は、地域で高次脳機能障害者に関わる機会の多い介護保険のケアマネージャーや地域包括センターの担当者などにも、圏域連絡会に参加してもらうことを考えています。

また、当院は、この区南部圏域で、高次脳機能障害者に関わっている医療・介護・福祉・行政分野の各支援者が、それぞれの良さが発揮できるように、高次脳機能障害支援普及事業「専門的リハビリテーションの充実事業」の担当施設として十分な後方支援を行いたいと考えています。

以上